



1高周波誘導炉で溶解された鉄鉱を運ぶ作業 2鉄道車両部品の数々 3会社の歴史や今後への思いを語る吉年社長 4消失模型铸造法による铸造のため、発泡スチロールの模型を組み立てる従業員 5薄い鉄物を製造するための铸造



かわちながの ものづくり探訪

Made in Kawachinagano

作

16

創

創業300年、鋳物で歴史を紡ぐ老舗企業

株式会社吉年

上原西町にある株式会社吉年は享保3年（1718年）、8代将軍吉宗の時代に創業、今年で300年を迎える市内屈指の老舗企業。高野街道に面した三日市幼稚園（上田町）付近が創業地で、当時は釜をはじめとする農具、鍋、寺の梵鐘などを製造。明治37年に可鍛鋳鉄の製造を開始し、昭和19年から株式会社となっています。

「豊かでゆとりある社会を支える」というのが、同社のキャッチコピー。「わが社はあまり目立たないが社会にとつて重要な部品を製造しています」と吉年正守取締役社長は胸を張ります。同社が製造するのは水道管やガス管をつなぐ継手や自動車部品のほか、新幹線にも使われる鉄道車両の部品、鉄筋と鉄筋をつなぐカップラ

ー、電力会社に供給する送電・配電用碍子金具などの鋳物製品が中心。「その多くは建物や鉄道の内部など、通常私たちが目にしない所に使われる縁の下の力持的な製品です」と吉年社長。

鋳物の製造方法は、鋳型に溶解した金属を流し込むという従来の方法のほかに消失模型铸造法（ロストフォーム）という従来の方法のほかに消失模型铸造法も。これは目的に応じて加工された発泡スチロールの模型を乾燥砂の中に埋設することで、鋳型とし、直接溶湯（溶解した金属）を注ぎます。発泡模型で鋳型とし、直接溶湯（溶解した金属）を注ぎます。発泡模型は高温で溶けた金属を流し込むと瞬時に消失し、直後に溶湯と置き換わる事で鋳物製品となります。同社ではこの方法で複雑な形状や薄い物など寸法精度の高

い製品を製造しています。

「より良い製品をより安く、より早く」ということを徹底させ、お客様に満足を提供し、信頼を獲得することが経営理念の同社。「管継手は成熟製品で、競争も激しい。今後は大学や国の研究機関と連携することで、高強度、耐高熱、耐摩耗を備えた高附加值の製品にも力を入れていきたい」と吉年社長は語ります。同社は時代に即した製品を製造することによって、これからも老舗企業の歴史を紡いでいきます。



株式会社吉年

可鍛鋳鉄の管継手をはじめ、可鍛鋳鉄製やダクタイル鋳鉄製の自動車部品・碍子金具など各種産業機械部品を製造・販売。

上原西町 16-1 ☎ 53-3121
<http://www.yodoshi.co.jp>



▲鉄筋コンクリート用カッラーは北陸新幹線や新名神高速道路の基礎や橋脚の鉄筋に使用されています。